

バットマン ビギンズ

2005(平成17)年6月18日鑑賞(梅田ピカデリー)



監督・脚本=クリストファー・ノーラン/原案・脚本=デイビッド・S・ゴイヤー/出演=クリスチャン・ベール/マイケル・ケイン/リーアム・ニーソン/ケイティ・ホームズ/ゲイリー・オールドマン/渡辺謙/キリアン・マーフィー/モーガン・フリーマン (ワーナー・ブラザーズ映画配給/2005年アメリカ映画/140分)

……アメリカン・コミックを原作とした『バットマン』映画は数多いが、私は『スパイダーマン』(02年)と同様、基本的にこの手の映画にはあまり興味がない。しかしこの『バットマン ビギンズ』はバットマンの誕生物語に焦点を当てたもので、割にマトモそう(?)と思って観に行ったが、果たしてその出来は……? こうもりにヒントを得てバットマンが誕生する人間的なストーリーはそれなりに興味深いものだが、全体としてはやっぱりコミック……。日本人のハリウッドスター渡辺謙の出来ももうひとつ……?

主役はなんと『マシニスト』の……?

この映画でバットマンことブルース・ウェインを演じるのは、クリスチャン・ベール。あまり馴染みのない顔だし、名前もそれほどのビッグネームではないなと思いながらパンフレットを読んでもみると、彼は何とあの『マシニスト』(04年)で体重を30kgも減量し、極度の不眠症のため365日間も眠っていないという驚異的な人物を演じた、あの俳優だ。あの病的な姿がホントにすごかったが、それとは対照的にこの『バットマン ビギンズ』では、人間の限界ギリギリまで肉体の鍛錬をして高度な武術を身につけた強いバットマンに変身だ。

バットマン映画あれこれ

私はバットマン映画がたくさんあることは知っているが、この手のアメリカン・コミックもの映画はあまり好きではない。パンフレットには当然「バットマ

ン映画あれこれ」が詳しく解説されているので、興味のある人はその勉強を……。もともと、今時の大人がバットマンのマスク、ケープ、ブーツなどの衣装や、その腰につけているさまざまな小道具、そして彼が乗るスーパーカー（これをバットモービルと呼ぶらしい）などにはあまり興味ないだろうが……。私がバットマン映画にあまり興味がないのは、要するにバカげているから……。単純に勧善懲悪のストーリーを楽しみ、かつ正義の味方バットマンの活躍に拍手喝采を送ればいいのだろうが、今さらこの年になってそういう気持には……？

これはちょっと異色のバットマン映画

しかし、この『バットマン ビギンズ』は、今までのバットマン映画とはかなり趣が違っているという前評判もチラホラ……。そしてそれは、パンフレットにも戸梶圭太氏の「バットマン、より深く厚く。」の解説の中で、「これまでで最もシリアスでダークなストーリー&ビジュアルになっていたので驚いた。そして『これは俺の好みだ!』と思った」と書いてある。この映画の後半は本来(?)のバットマン映画だが、前半のバットマン誕生に至る経緯はたしかにシリアスでダーク! その意味では、この『バットマン ビギンズ』はちょっと異色のバットマン映画。ちなみに帰りのエレベーターの中で、「夫婦50割引」で入っていること明らかなオッチャンが、「今まで観たバットマンの映画の中で1番良かったナァ」と大きな声でしゃべっていたのが印象的……。

前半の物語の中心は「影の軍団」

「影の軍団」とは日本映画でよく聞く名前だが、この『バットマン』ではヒマラヤ山脈の奥深くにアジトを持ち、そこで日々厳しい武術訓練に明け暮れている男たちの秘密結社の名前。どんな組織で何の目的のために動いているのか、そんな質問はやぼというもの。なぜなら、それがはっきりするのなら「影の軍団」などという名前はつけていないはずだから……。この「影の軍団」のボス、ラーズ・アル・ゲール（渡辺謙）は、何やらえらく難しい哲学的な教え(?)を説いている一風変わった雰囲気系の男だが……？

ナンバー2がバットマンの師……？

この「影の軍団」のボスであるゲールの下のナンバー2がヘンリー・デューカード（リーアム・ニーソン）。父親が殺された後、自分の進むべき道が見つからず、刑務所に入って暴れていたブルース（クリスチャン・ベール）の可能性を見出したのがこのデューカード。デューカードはブルースを「影の軍団」のメンバーに入れて鍛えようとし、ブルースは彼の教えに従ってよく訓練に耐え、実をつけていった。しかし……。それだけではバットマンが誕生する必然性は存在しない。さてそこからバットマンがどのようにして誕生し、誰がその敵になるのか、それは映画を観てのお楽しみに。

腐敗した権力と腐敗したまち

ブルースの父親トーマス・ウェインはゴッサム・シティーを愛し、これを理想的なまちにしようとする懸命な努力を続けていた人物。しかしトーマスの死亡後、ゴッサム・シティーは腐敗の一途を……。その原因は、マフィアのボスのカーマイン・ファルコーネが、このまちを「恐怖の力」と「金の力」によって影で牛耳っていたこと。ファルコーネ（トム・ウィルキンソン）の「恐怖の力」と「金の力」は巨大なもので、実業界はもとより警察、検察、さらには判事までがその影響下に。さらに、ファルコーネと大きなドラッグ取引を行う役割で登場する不気味な精神科の医師ジョナサン・クレイン（キリアン・マーフィー）もかなりのワル……。今やこの悪の支配下に入るのを拒んでいるのは、ブルースの幼なじみで、今は検事補となってフェイドン判事の調査に意欲を燃やしているレイチェル・ドーズ（ケイティ・ホームズ）と、ちょっと変わりモノの巡査長ジム・ゴードン（ゲイリー・オールドマン）の2人だけ……？

たったこれだけ？ 渡辺謙！

『ラスト・サムライ』（03年）における渡辺謙の演技は見事だったから彼に対して、「ハリウッド俳優」という称号がついたのも当然と納得できた。そしてこの『バットマン ビギンズ』は、ハリウッドスター渡辺謙の第2弾。しかもその役

は敵役。さて、正義の味方バットマンとどんな風に渡り合うのか、と興味津々……。しかし現実に見てみると、たしかに特殊な雰囲気をもった影の軍団のボスという役割はきちんとこなしているものの、たったそれだけ。しかも、しゃべっているセリフが何のことかよくわからない……。クリストファー監督は、「渡辺謙の出番は少ないものの、重要な役柄」と解説していたが、こりゃ完全なリップサービスでは……。そしてこれでは、ハリウッド俳優渡辺謙の名前が泣くのでは……？

こちらの紅一点はケイティ・ホームズ！

今年の夏の超話題作は、何とんでも『スターウォーズ エピソード3 シスの復讐』(05年)と『宇宙戦争』(05年)の2本。この『バットマン』が、これらにどこまで対抗して健闘できるのか興味深いですが、私は期待薄と考えている……。『スターウォーズ エピソード3 シスの復讐』の紅一点はナタリー・ポートマンだったが、この『バットマン』の紅一点はレイチェルを演ずるケイティ・ホームズ。『スパイダーマン2』(04年)の紅一点、キルスティン・ダントンはあまり魅力的な女性でなかったのが不満だと私は書いたが(『シネマルーム6』14頁参照)、この『バットマン』の紅一点は実に魅力的。彼女が主演した映画『ケイティ』(02年)の魅力については『シネマルーム3』226頁を参照してもらいたい。他方、スティーブン・スピルバーグ監督の『宇宙戦争』の主役はトム・クルーズ。かつてのニコール・キッドマンの亭主だが、ニコール・キッドマンは離婚後その女優としての魅力をより一層増しているのは、何とも皮肉……。こんな状況の中、ハリウッドには思わぬ大事件が……。それは、何とこのトム・クルーズとケイティ・ホームズが6月17日にパリで婚約発表したというニュース。2人の年齢差は16歳！ 出会ってから2カ月目のスピード婚約とのことだが、さすが3回目ともなるとトム・クルーズも手が早い……。6月20日付産経新聞夕刊には2人の熱々ムードの写真が……。『バットマン』はまだしも、これで『宇宙戦争』がこけたらエライこと……？

2005(平成17)年6月20日記